



第九卷第十號

月つきのあや雨あめのあや戻もどりの船ふねにま酒さけもさめ
 新あたら米まいのあや妻つまにかのもの買かひの小こ百ひゃく姓せい
 永とこのあや夜よにかけの音ねやむら村むら静しずか
 床とこのあや間まにかけの音ねやむら村むら静しずか
 横よこ町まちにかけの音ねやむら村むら静しずか
 村むら十じゅう戸こ時とき雨あめのあや葉はやむら村むら静しずか
 藪やぶ蔭かげにかけの音ねやむら村むら静しずか
 大おほ門かどにかけの音ねやむら村むら静しずか
 月つきもなくの雁かり今いま宵よか
 秋あき雨あめにかけの音ねやむら村むら静しずか
 奥おく殿だんにかけの音ねやむら村むら静しずか
 佛ぶつ壇だんにかけの音ねやむら村むら静しずか
 永とこ夜よにかけの音ねやむら村むら静しずか
 夕ゆふ小こ雨あめのあや頭かぶ枯かれて仕無むけり
 一いつつの家いえのあや壁かべもる月つきやむら村むら静しずか
 道みち問とへば若わかき女房むらやむら村むら静しずか
 伊い丹たんよりかげの音ねやむら村むら静しずか
 新あたら酒さけ一いつ盞さん納な戸こにかけの音ねやむら村むら静しずか
 よよきの人ひとのあや袖そでをみしけり秋日ひ和わむ
 菊きくのあや露つゆをみしけり秋日ひ和わむ
 山やま路ぢ來きて小さき花はなやあきのあ蝶てつ
 菊きくのあや露つゆをみしけり秋日ひ和わむ

十七字詩

鹽野奇零